

お告げのマリア修道会



まごころ会

発行：お告げのマリア修道会
2022年4月
TEL.095-846-8300

『わたしは主のはしためです。』

お言葉どおり、この身になりますように。』

聖週間 そして 主の復活へ



4月10日の受難の主日(枝の主日)から聖週間が始まります。今年もこの聖週間の典礼を通して救い主イエス様の受難と復活の神秘を思いめぐらし、私たちがいただいているお恵みに感謝を捧げ喜びを分かち合うことができますように。

聖木曜日…イエス様と弟子たちの最後の晩餐を記念し、私たちのためにご聖体を制定された主の愛に感謝します。洗足式が行われる教会もあります。



聖金曜日…犠牲をお捧げしながら主の受難と死に心を合わせ祈ります。午後3時または聖金曜日の祭儀の前に十字架の道行きが行われる教会があります。

聖土曜日…今夜行われる復活徹夜祭に思いを寄せながら希望のうちに過ごします。

主の復活…死に打ち勝って復活された主を喜びたたえます。私たちの洗礼のお恵みが復活へと続いていることを再確認し、一人ひとりが神様のご計画の中で生かされている信仰を新たにします。

3月28日 異動の日



今年も、シスターたちの異動がありました。新しい任地で歩みを始めるシスターと共同体のために聖霊の豊かな恵みをお祈り下さい。

支部修道院紹介

* 黒崎修道院



百周年記念カードのマリア様

黒崎修道院は、昨年8月30日に創立百周年を迎えました。1921(大正10)年、パリ外国宣教会ハルブ神父様により「黒崎愛苦会」として創立されました。5名の姉妹が子どもや大人の要理教育、典礼の準備、病人見舞い、特に死をまぢかにした方々を訪問して、安らかな天国への旅たちの準備を手伝い、見守りました。

昭和14年、地域の要望にこたえて、当時の主任司祭山田勇神父様を中心に農繁期託児所が開設されました。この託児所は昭和20年6月に戦争の影響で閉鎖されました。

昭和26年10月、姉妹たちは、渋谷神父様のご指導のもと私的誓願を立てて着衣し、「聖テレジア姉妹会」と改称しました。この時、檜山愛苦会も合併されました。



昭和26年10月着衣の喜び

檜山愛苦会は、明治30年潜伏キリシタンが教会へ復帰するための手助けになるようにと、岩永信平神父様が浦上の十字会より会員の派遣を要請し、5名で共同体がスタートしました。昭和13年会員が減少し、黒崎愛苦会より、会員を派遣して協力しました。その後も互いに協力して歩みましたが、昭和41年に檜山愛苦会は70年の歴史の幕を閉じました。

昭和31年、聖婢姉妹会に統合され、昭和50年3月25日「お告げのマリア修道会・黒崎修道院」となりました。

昭和38年、託児所再開の希望に応えるために数年の準備を経て「黒崎聖母保育園」が開設されました。

黒崎愛苦会は、明治25年、大正6年と2度の創立があり様々な事情から解散しましたが、神様のご計画の中で、大正10年に創立された3度目の修道院が多くの方々の祈り、ご協力の中で今日まで歩みを続けています

現在、黒崎修道院には、保育園で働く姉妹3名、留守を守ってくれる姉妹1名の4名が共同生活を送っています。